

3858 ユビキタス

佐野 勝大 (サノ マサヒロ)

株式会社ユビキタス社長

ミラクル・リナックス社との業務提携を発表

◆「dalchymia」関連で一定の収益を計上

平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績は、計画をやや下回る推移となった。組込みソフトウェア事業の概況として、主力のネットワーク分野については、重要顧客との包括契約を締結し、また、スマートエネルギー、HEMS 関連の案件を獲得し、引き合いも活発化している。データベース分野については、OA 機器など既存顧客からのロイヤルティ収益を獲得した。高速起動分野については、新規案件の獲得が想定を若干下回ったものの、複数の車載案件が継続している。サービス事業については、2 月より事業化した「dalchymia」(ダルキュミア)の関連取引で一定の収益を計上することができた。

売上高は 3 億 14 百万円(前年同期比 26.6%減)、営業損失は 1 億 93 百万円、経常損失は 1 億 91 百万円、四半期純損失は 1 億 90 百万円となった。製品分野別売上高は、組込みソフトウェア事業が 2 億 85 百万円(同 5.6%減)となっている。内訳を見ると、ネットワーク分野が 1 億 50 百万円(同 21.4%減)となっており、すでにスタートしていた案件の顧客都合キャンセル等が影響した。データベース分野は 94 百万円(同 63.5%増)となっており、年間計画に対して前倒しで進捗している。高速起動分野は 40 百万円(同 23.5%減)となった。サービス事業は 29 百万円(同 76.8%減)となっているが、前年同期に一過性の大型案件を受注したことが差異の主たる理由である。

通期業績予想については、当初予想を据え置いた。売上高は 8 億円を見込んでおり、第 2 四半期時点での進捗率は 39.3%となっているが、ビジネスの特性上、第 4 四半期に売上高が集中するため、ほぼ計画通りの推移だと言える。

◆セグメントおよび分野別動向

分野別の動向として、ネットワーク関連については、計画に対して案件獲得がやや低調となったものの、主力製品を中心とした新規案件の契約一時金、既存案件のロイヤルティ獲得により、収益を計上することができた。また、平成 25 年より開発を進めてきた車載向けの新製品「Ubiquitous Miracast™ Solution」を新規顧客に納品している。さらに、スマート系無線通信ソリューションにおいて、包括契約を締結した。

今期の取り組みとしては、スマートホーム実現に向けた製品展開を強化しており、7 月 24 日には、スマートメーターと宅内をつなぐために必要なプロトコルを製品化した「Ubiquitous Wi-SMART」の発売を開始した。今後も、スマートホーム、スマートエネルギー関連で、「Ubiquitous ECHONET Lite」関連製品、「Ubiquitous Wi-SMART」などの営業活動を活発化していきたい。また、重要なパートナーと位置付けている村田製作所との協業領域を拡大していく。

データベース関連では、OA 機器、通信機器、産業機器等の既存顧客を中心に、安定したロイヤルティ収益を獲得した。今後も長期のロイヤルティ収益が見込める顧客に対して営業活動を積極的に行っていきたい。また、組込み機器向けデータベースに関して新たな展開の可能性が出てきたため、IoT 分野での適用可能性の検討を継続していく。

◆車載分野の市場拡大を狙う

高速起動関連については、次世代のネットワーク接続型カーナビを中心に、拡販を継続している。新規案件獲得は計画に対してやや低調だが、カーナビ各社への浸透が進み、継続採用が安定してきたため、今後は新製品の横展開を含め、積極的に営業活動を行っていききたい。また、開発に時間を要するため、毎期、製品化に向けた開発を積み重ね、将来の収益につなげていく。

今期の取り組みとしては、車載分野での市場拡大を狙い、9月17日にミラクル・リナックス社との業務提携を発表した。現在、高速起動分野では、オープンソースのLinux、Androidを採用するメーカーが増加しており、今後数年で業界のデファクト・スタンダードになると予想されている。当社は従来、Linuxの高速化、Linux上で動くミドルウェアを展開してきたが、Linuxに強みを持つ同社と提携し、オープンソースのソフトウェアの品質向上、技術サポートなどをワンストップでソリューション化することで、より競争力が増すと判断した。今後は、既存顧客内での横展開、採用拡大を加速させるべく、ミラクル・リナックス社を含め、車載プラットフォーム向けに事業を展開しているメーカーとの協業を加速させていきたい。

サービス事業の「Ubiquitous ECHONET Lite」については、「Ubiquitous ECHONET Lite」や「Ubiquitous Wi-SMART」とクラウド側のプラットフォームを連携し、インターネット越しにエネルギーの見える化を推進するスマートホーム関連のソリューション提案が活発化している。また、認知度を高めるため、複数の実証実験、コンソーシアム活動も行っており、こうした活動を通じて新たな案件を獲得しつつある。この分野は従量課金のビジネスモデルとなっており、安定収入につながるため、引き続き販売・開発体制の構築・強化を図っていく。

HEMS、スマートエネルギー関連については、エネルギーの見える化、ホームコントロールといった分野で大型案件を受注し、開発がスタートした。特に直近の半年間で活性化してきており、背景には、2016年度からスタートする電力の購入自由化がある。上期だけでも相当数の引き合いがあったため、下期は案件獲得および売上計上に努めていきたい。電力を計測するための電源プラグ「Navi-Ene Plug」についても、販売を継続しており、事業者や大学・研究機関から一定の引き合いが来ている。

◆「Ubiquitous Wi-SMART」をリリース

ミラクル・リナックス社との業務提携は、自動運転、EV化など、高機能化・情報化する車載機器のソフトウェア分野でのシェア拡大が目的である。自動運転を実現するためには、車の中のさまざまな情報を管理し、インターネットを介してセンター側と通信する必要があり、次世代IVI（車載情報機器）が重要となる。次世代IVIでは、Linuxが中核技術となると想定されており、特に車載向けのAGLの標準化が進んでいるため、当社はここに着目した。

単にLinuxを提供するだけではなく、次世代IVIに必要なソースやコンポーネントを組み合わせでソリューション化し、かつ、セキュリティや長期メンテナンスをパッケージ化して展開することで、シェア拡大が可能だと考えている。また、自動車側のプラットフォームを押さえることで、クラウドプラットフォームと連携したビジネスも可能となる。

スマートエネルギー・スマートホーム向けの取り組みとしては、家の中の電力使用状況を監視し、コントロールするプロトコル「Ubiquitous ECHONET Lite」を展開してきたが、スマートメーターと機器を連携させ、インターネットを介してコントロールするためには、Wi-SUN規格が必要となるため、新たに「Ubiquitous Wi-SMART」をリリースした。これにより、スマートエネルギーを実現するための、すべてのソフトウェアプロトコルを揃えることができた。既に複数の大型案件が動いているが、2016年の電力購入自由化に向けて、一気通貫型のシステムが必要となる事業者が増加するため、ビジネスチャンスがあると考えている。

（平成26年11月14日・東京）

* 当日の説明会資料は以下のHPアドレスから見るができます。

http://www.ubiquitous.co.jp/ir/library_4.html